

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100340		
法人名	株式会社 きしの森		
事業所名	グループホームきしの森		
所在地	北九州市門司区吉志7丁目20-28		
自己評価作成日	令和元年12月10日	評価結果確定日	令和2年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	令和1年12月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

敷地内の畑で季節の野菜や花を育て、日常生活に四季を感じ収穫する楽しみが持てるよう、収穫祭などのイベントで収穫したものを美味しく皆さんで召し上がっていただいたり出来るようにしている。または併設事業所との合同行事などでグループホーム外の方との交流が出来るよう支援している。訪問看護ステーションが併設されており、ご本人、ご家族のニーズがあれば看取り対応なども可能となっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「きしの森」は、近年若者の転入などで栄えてきた新興住宅地の入り口にある2ユニット型グループホームである。敷地内にはグループホームのほか、系列の小規模多機能と有料老人ホームが隣接しており、複合的介護が可能で、利用者の状態にあったサービスが提供できる。施設前に庭を広く取っており、入居者と一緒に家庭菜園の手入れなども行い、季節折々の野菜などの収穫を楽しんでいる。前回の外部評価を受けて、理念の取組についても職員同士で話し合い、本人本位のケアの実現に取り組んでいる。日頃のレクも工夫しながら、運動不足にならないように提案し、ゆったりと過ごしている。看護職の職員と、隣接する事業所に看護師も常駐していることで多少の医療対応が必要な方の受け入れも可能で、職員や家族にも安心されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族にも協力いただき、その方らしい生活が送れるように、個別ケアの実践につなげている。	昨年の外部評価を踏まえて、職員とともに理念についての振り返りの機会を持ち、具体的なケアの実践について話し合った。朝礼時に唱和しており徐々に理解も進んできている。押し付けでない、本人本位のケアを目指し、シャワー浴から普通浴にしたり、おむつの方のトイレ排泄を介助したりと一つずつ取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は、夏祭りを外部の方にも開放し、参加頂けるようにしている。市民センターの文化祭には入居者と作り上げた作品を展示させて頂いたりし、交流につなげている。又、地域の保育園の慰問を年2回行い交流を深めている。	毎年行っていた夏祭りを、本年は外部にも公開し施設前にて看板によるアナウンスと回覧板への掲載を行った。何名かの地域の方の参加もあり、新たな交流につながった。町内会にも加入しており、回覧板による情報をもらったり、地域清掃にも管理者が参加している。保育園のほか、中学校の職場体験の受入れもあり、年に数回は行事での交流がある。	夏祭りの集客を増やすために、来年はポスティングなど、露出をしていくことも計画されている。また、地域でのふれあい昼食会にも利用者と一緒に参加できるような取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、地域の中学校より福祉体験の受け入れを行い認知症の方の日常生活を見て、支援する方法を体験して頂く事で認知症の方の理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に1回行い、利用者、ご家族にも参加して頂いている。意見交換する事で、サービス向上に活かしている。今年度は、民生委員さんの参加が少なかったため、開催日等を出来る限り参加しやすい日程に変更予定としている。	グループホーム単独で概ね2～3週目の午後実施し、地域包括、民生委員、関係薬局のほか、家族や利用者の参加もある。家族にはおたよりの中で案内し、概ねお一人が来られている。近況やヒヤリハット報告、参加者からの情報提供などもある。議事録は役所にものみFAXで報告している。	敬老会には家族参加も多いため、同日に運営推進会議を行う事で、日頃来られない方からの意見を聞いてはどうだろうか。議事録についても取組を知っていただく意味で、家族などに郵送で報告されても良いのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点等があれば、市の介護保険課や地域包括支援センターへ確認を行っている。	系列の3施設を統括する代表が総合して、役所とのやり取りをすることが多い。今年はグループホーム内での研修時に使える資料がないかどうかを区役所に尋ね、アドバイスを頂いた。市の担当への案内について地域包括に尋ねたこともあり、今後の案内を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は一切しておらず、定期的な身体拘束廃止の研修を行い、職員が正しく理解し適切なケアが行えるよう努めている。	1,2Fの行き来も含め、自由に移動できるようにしており、帰宅願望のあるような方も無理に引き留めず、見守りや付き添いで対応している。玄関にセンサー設置しているが、非常口からの離脱事故があり、以降は個別の見守りを強化している。原則拘束をしない方針で最近の拘束事例もなかった。拘束廃止委員会も昨年より組織して、3ヶ月ごとに開催している。内部研修も定期的に行い、スピーチロックなどについても理解を深めている。	万一の離脱事故に備えて、徘徊ネットワークやSOSの登録も引き続き検討をされてはどうだろうか。

2019自己・外部評価表(事業所名:グループホームきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い、高齢者虐待の防止について学び、虐待が見過ごされないよう注意している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っているが、今後も制度の仕組みや必要性について話し合いや、勉強が必要である。	直近までで制度利用された事例はなかった。内部研修によって勉強会を行っており、昨年は実施したが今年度の実施はなかった。職員の制度理解についてはまだ中途の所があり、対応が必要な際はケアマネが行うようになる。	まだ活用事例がないこともあり、準備も不十分な所もあるので、制度資料やパンフレットの準備、定期的な研修がなされることにも期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は丁寧に、十分な説明を心掛けている。疑問点などに対して適切にお答えする事で理解を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られるご家族とは直接意見・要望を聞くようにしている。遠方のご家族には電話やファックスで連絡をとり意見など取り入れるようにしている。又、行事予定のお便りに写真を貼り施設の様子が分かるようにしている。	毎月1回以上面会に来られる方が3分の1、残りは面会機会が少ないが、電話でのやり取りや、毎月発行の写真入りのお便りによって状況を共有している。前年の家族の意見で、食事について知りたいという要望があったので、おたよりに食事の写真を入れ込むようにしている。敬老会には家族の参加も10名前後あり、一緒に食事もしている。	敬老会の際に、同日に家族会などを行う事で、日頃の意見や要望を聞き取る機会を作ってはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝礼時を含め、随時職員の意見や提案を受けている。又、代表者が定期的に個別面談を行い、運営に反映させている。	概ね毎月、ユニットごとに職員会議を開催し、その日の出勤者によって話し合いをしている。欠席の職員には口頭での伝達か申し送りノートによって共有している。事業所全体の情報共有は管理者を通してや、朝礼などで伝達している。会議での意見も積極的にあげており、風通しも良い。代表との面談機会もあり、個別の相談機会も持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面談を行い、勤務状況の把握や、各自が取り組みたいことがあれば整備し向上につとめている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、性別年齢等を問わず採用している。また職員については各業務担当や月毎の担当でレクリエーション活動に積極的に関わられるように配慮している。	職員の男女比は2:8程度で、年齢は20～60歳代まで幅広く、平均すると40代当たりが多い。休憩時間も確保され、休憩場所も空きスペースや隣接施設を使って休むことが出来る。今は人員配置上難しいが、以前は研修案内もあり、参加もされていた。管理者が職員の得意分野を見極めて、手先の器用な職員に飾りつけをさせたり、掲示物、レク、お便り作成などに活かしたりしている。	

2019自己・外部評価表(事業所名:グループホームきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	本年度は、まだ人権研修は行っていないが、今後、法務省HPの資料等を参考に実施予定としている。また、県法務局にて貸し出し出来る教材等の問い合わせし、DVD等視覚に訴える教材等もあれば取り入れる事も検討している。	昨年の研修実績はあったが、今年はまだ研修していないので、今年度中の実施を検討している。外部研修の参加機会もなかったため、今年度については人権教育、啓発活動についての実践はなかった。理念にあるように、利用者本位の取組に力をいれており、本人の人権を尊重するようなケアを目指している。	外部からの研修資料の貸し出しなどを活用して、DVDなどの資料をつかいながら、定期的な研修がなされていく事にも期待したい。県政出前講座の講師派遣などの検討もなされてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を通じ、参加できない職員も文章で共有し技術・知識の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内で合同の勉強会を開き、病気や技術、介護についての意見交換を行い室の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めに管理者・ケアマネジャーがご家族より細かな情報を得る事で、本人が安心できる環境づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望をできる限り聞き入れ、困っている事や不安な事などが解消できるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントより、本人中心としてご家族と連携を図り、入居後もスムーズに生活を過ごす事ができるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の出来る事を見つけ、楽しく協力しながら過ごせる関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事会など一緒に過ごせる行事や、面会などで家族の繋がりを大切にしたい。本人が家族と話したい時など、電話で話し安心して頂くなどご家族の協力もある。		

2019自己・外部評価表(事業所名:グループホームきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や、ご兄弟に面会に来て頂いたり、ご家族と自宅できつろく時間がもてるよう支援に努めている。近くの商店に個別で買い物に行ったり、外出も可能な限り支援している。	家族に支援してもらって一時帰宅をしている方もおり、帰宅時に友人との交流をすることもある。認知度が重くなり、家族以外の交流は年々減ってはきている。元々近くに住んでた方もおり、馴染みのある商店での買い物なども支援している。	家族との関係が疎遠になっている方などの情報を改めて整理し、関係先の把握や、活用が出来るように、フェースシートやアセスメントの見直しなどを含めて取り組まれることに期待したい。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握し、座る位置など配慮している。レクリエーションや行事などで入居者同士が関わり合えるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じれる体制に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の重度化が進んできており、ご自分できちんと意向をおっしゃっていただけの方が少なくなりつつあるため、職員間で情報共有することでご本人が好きな事、熱心に取り組まれるレクリエーション等を把握するように努めている。	意思疎通の難しい方には、日頃の過ごし方や、家族からの情報などで推測し、レクやケアなどでの反応を見ている。アセスメントは入居時に主にケアマネが行い、関係機関からの情報提供なども頂いている。介護更新時の情報照会も行っている。ケアマネも現場に入って、職員の意見も聞き取ることで、実践に則した情報収集に活かしている。	家族からのアンケートや情報提供表のような形で、生活歴や関係を整理するようにし、情報がさらに充足していくようにしたいと考えている。実現に期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員が着任間もない為、過去の記録等から出来るだけ生活歴を把握し、ご本人から情報を得ることが困難な場合はご家族来所時にこれまでの生活の状況などを出来る限り聞き取るようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気になることがあれば、実際に介護にあたる際に情報収集する他、日々の記録確認や他職員から聞き取りを行い現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から、職員間でご本人の状況の情報共有に努め、計画作成時は、会議内や出席が困難なご家族や他職種からは事前聴取などで意見を伺うよう努めている。	各ユニットの計画作成担当者が、主にプラン作成と毎月のモニタリングを行っている。見直しは、状態変更時の随時と定期的に半年～1年程度で行っている。スタッフへのプランの共有については、ファイルに最新のプランを綴じ込んで参照しながら記録を行い、目標ごとにナンバリングして実施チェックもしている。見直し時の担当者会議には本人、家族にも参加してもらい、看護師などから意見照会をもらうこともある。	

2019自己・外部評価表(事業所名:グループホームきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画内項目ごとにNoを付け、日々の記録時ケアを行った場合に記載している。現在の状態にそぐわないため、ケア内容に問題が生じれば職員間で情報共有し次回プランへ反映している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護と連携を取り、医療的な問題にもすぐ対応している。必要に応じて買い物など、可能な限り利用者が満足して頂けるよう努力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、近くの商店に買い物に行ったり、充実した時間が持てるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診付き添いが困難なご家族が多い為、往診頂ける医院をご紹介している。往診時は、訪問看護師と共にホーム職員が現況を医師へ報告し情報共有に努めている。	事業所の提携医が往診も行うため、入居時に切り替えられる方がほとんどである。外部の医療機関の受診時は基本は家族に連れて行ってもらうが、事業所からの支援も行う。系列に訪問看護ステーションもあり、毎週の管理を行い、医師との連携もとっている。事業所にも看護師が在籍しており、密な健康管理がなされている。家族への連絡が必要な際も看護師から行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと常に連携を取り、入居者の少しの変化にも迅速で適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係への情報提供を行い適切な治療が出来るようにしている。日頃より代表が病院関係者との連携を取っており、退院後の生活が円滑に送れるよう関係づくりを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作り、重度化した場合や終末期のあり方について十分な説明、話し合いを行っている。家族・医師・訪問看護と協力しながら支援に取り組んでいる。	看取り指針も数年前から作成しており、これまでも3名の方を看取っている。提携医も24時間体制で、訪問看護と連携して対応しており、家族とも一緒に見送ることが出来た。昨年は医師と共に看取りについての勉強会を行った。職員も経験を積んできて落ち着いて対応が出来るようになってきた。状態の重い方は系列の有料ホームに移ることもある。	今後の対応事例の可能性もあり、定期的な研修や勉強会がなされることが望まれる。

2019自己・外部評価表(事業所名:グループホームきしの森)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生に備えて、普段から想定した話し合いや、看護と連携を図り、応急手当や初期対応の訓練を行っている。	
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。消防署の立会い訓練で、実際に通報や消火器を使った訓練を行った。夜間想定訓練は実施に至っていないが、マニュアルを作成し全員が周知している。	グループホーム単独で訓練を実施し、年2回の内1回は消防署にも立ち会ってもらった。地域での訓練参加も検討したが実施がなかった。水、乾燥食品の備蓄があり、半日～1日程度の蓄えをしている。  消防署との合同の防災訓練について地域の方の参加協力を検討したり、夜間想定訓練の実施がなされることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報利用に関して、ご本人・ご家族の意向を更に詳細に確認出来る書類を作成し、順次ご家族来所時に説明と同意署名を頂いているところである。	昨年の外部評価を踏まえて、写真の利用については改めて説明し、書面にて同意を頂くように進めている。普段接する際も言葉かけや対応について職員同士で話し合っており、傷つけたり失礼の内容に配慮している。利用者の状態によって、職員の男女の入れ替えなども行って対応している。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意志や希望を尊重している。うまく言葉にできない方には、表情や仕草からくみ取れるよう努めている。	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはあるが、その方一人一人に合わせたペースを大切に支援している。思いや希望を大切に強制しない支援を行っている。	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の着たい服と一緒に選んだり、訪問理美容では好きな髪形や、カラーをしたりしている。お化粧を楽しむ方もおられる。	
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食事形態で提供している。畑で一緒に収穫した野菜で好きなメニューに調理し一緒に食べたり、片付けを行ったりしている。	隣接の系列施設の厨房で調理されたものの配食があり、盛り付けをし直して配膳している。炊飯のみ事業所で行う。メニューは栄養士が管理しており、個別で変更が必要な際も適宜対応を行っている。家庭菜園の収穫物を使った調理をしたり、下ごしらえを手伝ってもらったり、皿洗いをしたり出来る事してもらっている。パンの移動販売が毎週あり、好きなパンをそれぞれ買って楽しんでいる。  外食機会がなかったため、バスや車を活用して、レク的に食事を楽しめるような機会が持たれることに期待したい。

2019自己・外部評価表(事業所名:グループホームきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患や状態に応じて食事量、形態を個々に合わせ支援をしている。水分量など記録し、飲めない時など種類を変えたりして摂取出来るよう支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施と口腔内に異常がないか確認している。訪問歯科と連携をとり助言を受けながら、出来ない所は職員が、出来る部分は本人にして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の訴えがなくても、排泄間隔を把握しトイレ誘導を行っている。トイレで排泄する感覚が薄れないよう支援している。	排泄チェック表は介護記録の中の項目で、毎日24時間分管理している。日中は基本的にトイレでの排泄を行い、トイレ誘導によって尿意の訴えも出るようになり、パット内汚染が減った方もいる。改善についてはケアマネや職員が記録を確認し朝礼や申し送りなどで提案して、実行している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配り、排便間隔を記録している。医療従事者の連携と看護師による処置を行っている。また適度な運動で便秘予防につなげている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴を行っている。入居者の希望やタイミングに合わせて無理強いはせず曜日を変えたり等、可能な限り対応している。	1,2Fの造りは共通の、家庭用より若干広めのユニットバスで、入り口、浴槽脇には手すりが取り付けられている。概ね一人、週2回程度で、希望があれば3回入ることもある。身体レベルが落ちて移乗が難しくなった方にも2人介助などで浴槽に入ってもらい寛いでもらえるように取り組んでいる。皮膚観察などの健康管理にも役立て、直ぐに管理者から看護師に報告している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休みたい訴えあれば夜に支障がない程度で休んで頂いたりしている。午前中テラスで日光浴を行ったり夜の安眠に繋がるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには最新の薬情報があり、薬変更時には薬剤師に注意点など聞き、申し送りノートに記載、朝礼・夕礼時に口頭で申し送りを行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の手入れを一緒にしたり、得意な事を見つけて残存能力を活かせるよう支援している。散歩やレクリエーションで気分転換を図っている。		

2019自己・外部評価表(事業所名:グループホームきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は、散歩に行き戸外に出かけられるよう支援している。また本人の希望を家族にお伝えし、協力しながら出かけられるよう支援している。遠出は車両台数の関係上まだ計画出来ていないため、課題となっている。	近くにある神社や小川が散歩コースになっており、気候のいい時季に周囲を回っている。外出行事は初もうでとお花見の年2回があり、それ以外では少人数で町内行事に行く程度である。家庭菜園のお世話などは皆で行い、外で日光浴することもある。家族のいる方は一緒に外出もされている。	職員が安定して、外出できる体制をつくって外出機会がもっと増やせるようになることが期待される。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自身でお金を持っている人はいないが、欲しいものや希望があれば使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけられるよう支援している。ファックスで遠方の家族から手紙がくる環境にもある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・居間でゆっくりくつろいで頂けるようカーテン、照明などで心地よい光を取り入れられるように調整している。音や温度もこまめに調整する事で居心地よく過ごせるよう心掛けている。	1,2Fに1ユニットずつ配置され、造りはほぼ共通である。カウンターキッチンの前にダイニングテーブルと、テレビ周りにソファが配置され、一角には小上がりの和室スペースもある。玄関や内部には季節ごとの飾りつけが飾られ、文化祭に展示された作品などもある。テラスから庭への行き来もしやすく、軒下に燕が巣をつくることもあり、気候のいい時期はカフェテーブルで寛ぐこともできる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や居室で過ごすなど、本人の意思を尊重している。気の合う利用者同士が会話など楽しめる環境づくりをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時なるべく本人の使いなれた物や家具などがあれば持ってきていただくようご家族にお願いしている。本人の希望でテレビを自室に置いたり、ベッドから敷布団に変更可能である。	ホールから伸びた廊下沿いに居室は配置されており、静かに休むことが出来る。電動介護ベッドが備え付けられ、壁面はシンプルに白で統一されている。掃き出し窓からの採光も良く、外部の騒音も少ないため明るく穏やかな時間が過ごせる。持ち込みも自由で、タンスやテレビ、仏壇などを置く方もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には名前、トイレや浴室には文字で確認できるようにしている。共同スペースには、事故につながるような物は排除し安全な生活が送れるよう努めている。		